

生物生態学

担当教員： 神崎 護

履修年次・区分： 1～4年（共通－教養－環境と生活）

授業のテーマ： 陸域生態系で最大の生物システムである森林生態系を対象に、その多様性と成立メカニズム、ならびに生態系機能に関する講義を行う。地球並びに我が国の多様な森林タイプとその成立要因を気候学、土壌学、地形学、生物地理の視点から解説する。森林生態系を支える有機物とミネラルの循環についての基本的知識とともに、森林生態系の炭素吸収による温暖化防止や良質な水資源供給の機能に焦点を当て、森林が提供する生態系サービスの重要性を科学的に学ぶ。

この日の授業内容： 土壌水分



日本でよくみられる土壌には、関東以北と九州に多い黒ボク土や、西南日本に多い赤黄色土などがあり、この土壌の構造によって植物の根が利用できる水分の量が異なります。有機物が多く土の中に隙間の多い黒ボク土の方が赤黄色土よりも保水性は大きいといえます。

小レポートに取り組んでいます。課題は「人間社会を生態系として考えると？」人間を生態系の一員として考えた時、食物連鎖や炭素、窒素の循環はどうなっているかを書き込んでいます。人間社会を生態系として捉えるのは、学生たちにとって新鮮な感覚かもしれません。

(2017年3月取材)